
ちせ

ルリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちせ

【Nコード】

N7519C

【作者名】

ルリ

【あらすじ】

ルリです。お久しぶりです今回はちょっとした、短編ストーリーを書いてみました。少し暗いはなしですが読んでみて下さい

いきなりですがストーリーは一気にラストシーンへ「マンガ版」

展望台

ちせ「シュウちゃん、2、3日したら合図があったらまたこの展望台にきてね」

合図、それは地球が終わってしまう合図だった。ちせはこの一言をいって、去っていった……。僕にはその約束を守ることくらいしかできなかった。

2日後

ものすごい朝焼けがきた……。終わりの合図だった。

シュウジ「あのバカ、1日はえーじゃんか」

シュウジは家族のもとへとはしった……………

そのころちせは太平洋のと真ん中にいた

ちせ「きた」

目の前にはアメリカの軍の飛行機がたくさんいた、朝なのに空が真っ黒になるほどのおびただしい数だった。

ちせ「・・・・・・・・」

ちせの体が光はじめ、飛行機の中に突っ込んだ

その瞬間爆発がおきてあたり一面、血の海になっていた

数時間後

ちせ「はあ、はあ」

ちせは生きていた、ボロボロになりながらもシュウジの待つ展望台にいった

ちせ「シュウ・・・ちゃ・・・ん」

展望台につき、いつもどおりで何もなかった事を確認してシュウジをちせはみつけた。

シュウジ「ちせー」

ちせはそのシュウジの姿を見て涙が止まらなかった

ちせ「シュ・・・ウ・・・ちゃ・・・ん」

ボロボロになったちせを抱きかかえ、シュウジはいった

シュウジ「お疲れさん」

涙がでてきながらちせは頷いた。

展望台からみえる景色はなにもかわる事のない景色だった

ちせ「シュウちゃん・・・シュウちゃん」

泣きながらふたりは抱き合っていた

「……………」

抱き合っているなかで誰かわからない声が聞こえた

「……………」

「……………」

それは軍人さんだった

軍人「ちせさん、そんな所に1人でいたらあぶないです、早くきてください」

ちせは意味不明のことをいつている軍人にこういった

ちせ「なにいつてるしよや、戦争は終わって私のすんでいる場所は大丈夫しよや」

軍人「何いつてるんですか？はやくおりてきてくださいこの場所は危険です。」

ちせは落ち着いてシュウジの顔をみた………

ちせ「シュウちゃん？」

見た瞬間そこには誰もいなかった

ちせ「シュウちゃん？シュウちゃん？」

ちせは辺りをみまわすところはただの崖の上だった

ちせ「あれ、シュウちゃんは？町は？」

永遠とひろがる荒地だった

ちせ「シュウちゃん……………」

ちせの顔色はどんどんわるくなり

ちせ「うわあああああ————」

北海道にはもう何もなく人も誰もいなかった・・・

軍人さんもたまたまヘリコプターでちせをみつけただけだった

ちせ「いや――――――――――」

（後書き）

ちよとバッドエンドになってしまいましたが、ちよつと間違えれば
こついうことになっていたかもしれません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7519c/>

ちせ

2010年10月9日10時25分発行